

# G20 大阪サミットに向けて

## ～日本のジェンダー課題と世界の動き～



2月23日(土)クレオ大阪中央において、「トライセクターリーダーシップセミナー G20大阪サミットに向けて～日本のジェンダー課題と世界の動き～」を開催しました。このセミナーでは、行政、民間企業、非営利団体の垣根を超えた連携の仕方を模索することを目的としたもので、今回はそれぞれの立場からG20大阪サミットに向けた取り組みについて学び、意見交換を行いました。

講師の一人、弁護士の林陽子さんは、国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)前委員長で、2018年にカナダ政府の委嘱により、G7ジェンダー平等諮問委員会の委員に就任。林さんには、G7サミットでの議論を中心に、世界ではジェンダーをめぐる課題がどのように議論されているかについて解説いただきました。

2018年カナダG7におけるジェンダー平等諮問会議では、「採択された文書の8割に、ジェンダーやリプロダクティブヘルスライツ(性と生殖に関する健康と権利)、母子保健についての言及がありました」。市民活動が活発なカナダで開催されたこの会議では、ジェンダーについて様々な議論が行われましたが、「固定化された性別役割分担意識の問題や、無償労働の問題、避妊・中絶を含む女性の性的な自立の問題など、議論しつくされていない様々な課題もある」とのこと。宗教的・文化的な背景をもとに、各国代表が様々な立場で議論することの緊張感が伝わるお話しでした。

その後、G20サミットにおいて、首脳たちに向けて各セクターから公式な提言を行うグループの活動のうち、C20(市民社会)と、W20(女性)の取り組みについて、G20サミット市民社会プラットフォーム共同代表・C20共同議長の三輪敦子さんと、W20運営委員の荒金雅子さんから情報提供がありました。

後半は、ゲストスピーカーを交えて小グループに分かれてディスカッションタイム。4時間にわたるセミナーでしたが、時間が足りないと感じるほど熱気あふれる内容となりました。

参加者からのアンケートでは、「G20など自分には無関係だと思っていたけど、自分の活動の延長にあると気づきました」、「学ぶことから声を上げ、行動を起こす。そしてつながれることの大切さを痛感しました」などの声をいただきました。

